



ひなまつり会

ひな祭りは女の子の成長を願う行事で、桃の花が咲くころに行われ、「桃の節句」とも呼ばれています。ひな人形は子どもたちの身代わりになって、病気や事故から守ってくれるとも言われています。ひな祭りは、平安時代から続く伝統行事です。大切に受け継いでいきたいです。



卒園式

卒園式 25日 10:00~

年長児の成長と門出を心をこめてお祝いしたいと思います。いつもと少し違う雰囲気の中で一人ひとりの思い出になる式になれば何よりです。詳細につきましては後日、きっぷノートにて配信いたします。

「平和都市 みんなでつくる 防火の輪」  
広島市南消防署



笑顔を見せあいながら

1月末のアンケートにおいては296世帯中177世帯の方々にご回答をいただきました。

お忙しい中、アンケートにお答えいただき、また、たくさんのご意見を頂戴しありがとうございます。アンケート結果報告ならびにご意見の詳細については、現在取りまとめているところです。3月中旬ごろに「アンケート結果」と「ご意見とその対応」を掲示ならびにキッズノートにて公開しますので、今しばらくお待ちください。

さて、2月中旬ごろから下旬にかけてインフルエンザが感染拡大しました。この3年間、インフルエンザの罹患者はほとんどありませんでしたが、子どもも大人もインフルエンザに対する免疫が無くなってしまっているのか、あっという間に拡がり、しろうみ(5歳児)においては2週間の間に29名の子どもたちが罹患し、その他のクラスにおいても少しずつの罹患者があり、2月の1か月間で園児42名のインフルエンザ陽性者がありました。一方で、新型コロナウイルスについては、2月以前には、「関係者に陽性者があったため用心のためお休みします」といったお電話がほぼ毎日のようにありましたが、2月以降は、園児の陽性確認も、ご家族や保護者の皆様のお勤め先においても陽性者があったという話はありませんでした。2月末日にはインフルエンザも少し落ちつきを見せ始めましたが、まだまだ予断を許さない状況です。園におきましては、アルコール消毒や換気、室内の湿度を保つなどして、引き続き感染拡大防止対策に努めてまいります。各ご家庭におかれましては引き続き、手洗い・うがい等を子どもたちと一緒にするなどして、感染対策をお願いします。

2月15日、しろうみ(5歳児・年長)が参加するひな祭りお茶会がありました。近隣にお住いのお茶の先生(茶道裏千家正教授 近村宗恵先生)にお越しいただき、お点前(お茶を立てる様子)を拝見して、お菓子と美味しいお茶をいただく機会です。参加したしろうみの子供たちは、ホールに入ると普段と違う雰囲気を察したのか、途端に表

情が変わり、背筋がピッと伸びて凛とした佇まいになり、ホールに敷かれた絨毯の上にそれぞれが正座で座りました。壇上ではお点前が披露され、その様子を見つめる子どもたちのまなざしもまた、興味・関心があふれており、キラキラと輝いていました。そして、お点前が披露されたのち、子どもたち一人ひとりの前に一つずつお菓子とお茶が配られました。お菓子・お茶を受け取る際、子どもたちは自然と頭を下げて礼をし、中には小さな声で「ありがとうございます」という子や深くお辞儀をする子もいました。担任によれば、お茶会の大まかな流れについては、ある程度子どもたちに伝えていたようですが、お菓子やお茶を受け取る際の所作については具体的に「こうする」と伝えていなかったとのことでした。お菓子とお茶を受け取る際の所作や感謝の気持ちは、子どもたち自らが考え、判断して、自然と表現されたことでした。まさに、保育理念「感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子」を子どもたちが体現してくれた瞬間であったと感じています。

今年の年長児は、多感な幼児期(3歳児から5歳児)を、ずっとコロナ禍で過ごしてきました。私たち保育者は、可能な限り、子どもたちの「今」は今しかないということから、たくさんの体験・経験ができるよう努めてきましたが、制限をかけたり、中止にしたりせざるを得ないこともあり、子どもの育ちを考えると、やるせなさ、もどかしさを感じたこともありました。

しろうみさんたちの園での生活は残すところ1か月となりました。マスクの着用についても個人の判断に委ねられることとなり、卒園式においては、子どもたちと保育者(職員)ともに笑顔を見せあうためにも、マスクを着用しないこととしています。

進級・進学にワクワクしている子ども、ちょっぴり不安な子どもなど、様々です。引き続き、一人ひとりの子どもの思いに寄り添い、これまで十分にできなかった、たくさんの笑顔を見せあいながら過ごしていきたいです。

園長

あこがれや真似っこは、自分も「やってみよう!」「挑戦したい!」という気持ちの表れですね



2歳児のSちゃんが、トレイ(空き容器)を手でちぎっていると…。0歳児のHくんが、側に近寄って、「何をしているのかな?」というように、興味をもってじっと様子を見ています。

箱積みをしていた0歳児のRくん。2歳児のSちゃんのこと気がなっていたのでしょう。Sちゃんがある場から離れたと、同じようにトレイをちぎり始めました。真似っこすることは、自分も「やってみよう!」「挑戦してみたい!」という気持ち(意欲)の表れですね。上手くちぎれなくても向きを変えてみたり…。トレイの次は空き箱もちぎって試していました。



指先を使って、ちぎる感触を楽しんでいるのかな? しばらく集中して遊んでいましたよ。

~0,1,2歳児ふれあい交流から~